

「計画の検討のためのたたき台」の考え方

令和 4 年 11 月 29 日
自然環境保全課

1 基本的事項

- 「計画の検討のためのたたき台」は、素案作成に先立って、計画書の書き方などの方針を確認するために作成した。今回、当委員会で出たご意見を踏まえ、次回委員会に向けて素案を作成していく予定である。
- 計画書の構成は、環境省が作成している「生物多様性地域戦略策定の手引き（令和 4 年度改定版（草案）※）」の「戦略テンプレート」を基にした。
※令和 4 年 11 月現在、自治体にのみ草案が示されており、手引きの改定は次期国家戦略策定後に行われる予定。
- 現行計画の目標及び取組の体系は維持しつつ、エリアごとの課題や取組みの見せ方について、地図やグラフ、写真やイラストを交えて、生物多様性保全の観点からどのように関係するかの説明を加えた。
※たたき台では、「山麓の里山エリア」を例に説明する。

計画目標

ア 地域の特性に応じた生物多様性の保全

生態系に着目して 6 つのエリアに区分し、その特性に応じた生物多様性の保全を進めていくことを目標とする。

イ 生物多様性の理解と保全行動の促進

将来にわたり生物多様性の恵みを享受できるよう、県民や事業者、行政など様々な活動主体が生物多様性について理解を深め、日常の活動において、生物多様性に配慮した行動や生物多様性の保全のための行動をとることを促進することを目標とする。

取組の体系

・ 県土のエリアに即した取組 ・ エリアをまたぐ取組 ・ 生物多様性の保全のための行動の促進

2 各項目の変更点やポイントについて

（１）第 1 章 生物多様性の保全をめぐる動き

第 1 章では、「生物多様性」とは何なのか、私たちの生活にどのように関わっているのか等を説明する（たたき台 P1～5）。※現行の計画書では P1～3

【変更点】

- ・ 生物多様性に関してトピックとなりそうなものは、「コラム」としていくつか追加した。
コラムの題材については、これまでの検討委員会で出たご意見も参考にした。
（県の特産品、生物多様性の損失による影響、ワンヘルス など）
- ・ 「生物多様性の 4 つの危機※」について、現行計画には記載がなかったため追加した。
※国家戦略で整理されているもの。次期国家戦略でも同じ。
- ・ 「生物多様性の本来の大切さ」の説明を追加した。

現行計画では生態系サービスの説明がメインであったが、生物多様性の恩恵は目に見えないものが多く、今の科学では判明していないところが多いため、その旨の説明を加えた。

【ポイント】

- ・序章の生物多様性の説明は、いかに読み手にその大切さを伝えるところであるので、イラストや写真を多用してイメージしやすいよう工夫すると共に、内容も、コラム等を増やし、実例を挙げて理解の促進を図った。

（２）第２章 生物多様性の現状と課題

第２章では、生物多様性の背景にある、県の社会的特徴や自然環境の特徴について説明する。

また、県内地域ごとの生態系の特徴に着目して、６つのエリアごとに状況を考察し、各エリアの課題、全体に関する課題等を説明する。（たたき台 P5～13）。※現行の計画書では P8～15

【変更点】

- ・県の社会的特徴、地形・地質的特徴について説明を追加した。
- ・「本県における主な生態系」に生物の写真を追加した。
- ・「各エリアの現状と課題」について、地図を追加し写真を増やした。

山麓の里山エリアを例として、イメージを別添 1 に示した。

【ポイント】

- ・生物多様性保全を推進していくためには、地域ごとの人口の推移や、産業などの特徴を考慮する必要があり、地形や地質は生態系を特徴づける大きな要因であるためそれらにも触れる
- ・‘主な生態系’の説明については、山地・森林、里山・農地、都市、水域それぞれで、どのような生物が生息・生育しているのか写真やイラストがあったほうが、イメージしやすいため生態系ピラミッドを用いて一例を載せた（たたき台では里山・農地生態系を例とした）。

（３）第３章 生物多様性計画の基本的事項

第３章では、第２章での課題を踏まえて、計画の目的や基本理念、将来像や目標を示す。

（たたき台 P13～16）。※現行の計画書では P4～5

【変更点】

- ・生物多様性計画の位置付けについて、関係する各計画や、国や市町村を含めて図示した。
- ・県の「基本理念」及び「将来像」の項目を追加した。

【検討事項】

- ・県の「基本理念」及び「将来像」については検討段階である。関係する計画や、各エリアでの多様な主体の取組み状況、国家戦略の方針などを考慮しながら、総合的に検討していく。

（４）第４章 目標・将来像の実現に向けた取組

第４章では、第３章での目標のために実施する、具体的な取組みを説明する。

（たたき台 P17～21）。※現行の計画書では P16～38

【変更点】

- ・「県土のエリアに即した取組」について、地図を追加し写真を増やした。

山麓の里山エリアを例として、イメージを別添 2 に示した。

- ・ 県の取組みだけでなく、市町村等が行っている生物多様性の取組事例も紹介する。

【ポイント】

- ・ 各エリアの拡大地図（凡例付き）を示すことで、そのエリアの特徴が分かるようにし、「取組みの方向性」について、目指す姿をイラストで示して、各取組みと生物多様性保全の関係がイメージし易いようにした。

【検討事項】

- ・ 具体的な県の取組は、今後、庁内各課にヒアリングを行いながら書き足していく。
- ・ 当課直営の取組は、現在実施している事業（アドバイザー派遣、生きもの調査 等）をブラッシュアップしながら、他にもできそうな事業があるか検討していく。
- ・ 市町村の取組事例は、今年 9 月に実施したヒアリング結果を基に、各市と調整しながら作成していく。

（５）第５章 推進体制と進行管理

第５章では、計画を推進していくための体制や進行管理の方法等について説明する。また、生物多様性に関する指標を示す。（たたき台 P22～23）。※現行の計画書では P6～7、P50

【変更点】

- ・ 現行計画の各指標について、どのように生物多様性の保全に関係するか、指標ごとにフロー図で解説すると共に、どのエリアに関する指標なのか説明を加えた。
指標 1～5 を例として、イメージを別添 3 に示した。

【ポイント】

- ・ 数値を並べるだけではその指標の意図が分かりにくいいため、フロー図や地図を加えて、生物多様性保全との関係が分かり易いようにした。

【検討事項】

- ・ 現行の指標の他に、指標として適するものがないか、引き続き検討をしていく。
- ・ 推進体制について、推進委員会や生物多様性センターの設置について検討をしていく。
- ・ 計画の進捗管理をどのようにしていくのか、PCDA サイクルを意識して検討をしていく。

（６）用語集 ⇒ 計画の内容に合わせて、用語及び説明文を更新する。

その他

各コラムの内容は、別添 4 にまとめた。

以上